

史料群番号 28

史料群名	ながおさえいざぶろう 永長栄三郎家文書		旧所蔵者	永長栄三郎
採訪時住所	茨城県稲敷郡古渡村古渡			
現在の住所	茨城県稲敷市古渡			
採訪年月	昭和26（1951）年8月			
史料の年代	慶長7（1602）年～文久2（1862）年	史料の 総点数	33点	
年代の内訳	近世 30点/不明 3点	筆写稿本	あり	
既刊行目録	「1953年11月 漁業制度資料目録 第9集 全国篇VI 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十五年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-茨城県（霞ヶ浦・北浦周辺地域）関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」			

収蔵にいたる経緯

現在「永長栄三郎家文書」は、中央水産研究所と神奈川大学日本常民文化研究所に分割して保管されている。元々一体であったことは、「漁業制度資料目録 第9集」の同家目録に、概ね両方の史料を合わせたものが掲載されていることから明らかであろう。おそらく、水産資料館が設置され、寄贈分と借用分に分けられた際に、何かの理由で別置されていたために分割されたのであろう。本史料群の採訪の書類には寄贈となっている。

史料群の概要

古渡（ふっと）は、霞ヶ浦の南岸、小野川の河口に位置し、近世の古渡村は常陸国河内郡に属し、旗本あるいは幕府との相給村であった。明治22年に10ヶ村が合併して古渡村が成立、明治29年に稲敷郡に属することになる。昭和30年に桜川村の一部になり、平成17年稲敷市となった。史料の大半は、近世期の検地帳や名寄帳など土地に関する横帳あるいは縦帳である。特に安政5年のものは8冊残されており、貴重な情報を伝えている。永長氏は、近世の古渡村の名主であった。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

